

東

2023年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2022年10月28日

上 場 会 社 名 ブルドックソース株式会社 上場取引所

コード番号 2804 URL https://www.bulldog.co.jp 代 表 者(役職名)代表取締役 社長執行役員 (氏名) 石垣 幸俊

問合せ先責任者(役職名)執行役員 経営企画室長 (氏名) 鈴木 美奈子 (TEL) 03 (3668) 6821

四半期報告書提出予定日 2022年11月2日 配当支払開始予定日 2022年12月1日

四半期決算補足説明資料作成の有無:有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第2四半期の連結業績(2022年4月1日~2022年9月30日)

(1)連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上商	15 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15 1	営業利	益	経常利	益	親会社株主 する四半期	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第2四半期	6, 656	△0.5	150	△53.6	559	△7. 6	361	△13.9
2022年3月期第2四半期	6, 686	_	323	△37. 1	605	△11.2	420	△11.7

(注) 包括利益 2023年3月期第2四半期 348百万円(83.1%) 2022年3月期第2四半期 190百万円(△74.1%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円銭	円銭
2023年3月期第2四半期	27. 10	_
2022年3月期第2四半期	31. 31	_

前第1四半期連結会計期間の期首から「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を適用しております。このため、2022年3月期第2四半期の売上高の対前年同四半期増減率は記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2023年3月期第2四半期	28, 819	20, 233	70. 2	1, 516. 04
2022年3月期	29, 763	20, 139	67. 7	1, 509. 03

(参考) 自己資本 2023年3月期第2四半期 20,233百万円 2022年3月期 20,139百万円

2 配当の状況

		年間配当金					
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計		
	円 銭	円銭	円銭	円銭	円銭		
2022年3月期	_	17. 50	_	17. 50	35. 00		
2023年3月期	_	17. 00					
2023年3月期(予想)			_	18. 00	35. 00		

⁽注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日~2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高	<u>.</u>	営業利	益	経常利	益	親会社株主 する当期約	に帰属 吨利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円銭
通期	13, 500	1. 5	270	△58.6	980	△3.3	570	△20.5	42. 71

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無

(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 —社(社名) 、除外 —社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注)詳細は、添付資料 9 ページ「四半期連結財務諸表に関する注記事項」を参照してください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無② ①以外の会計方針の変更 : 無③ 会計上の見積りの変更 : 無④ 修正再表示 : 無

(4)発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

2023年3月期2Q	13, 954, 880株	2022年3月期	13, 954, 880株
2023年3月期2Q	608, 762株	2022年3月期	608, 762株
2023年3月期2Q	13, 346, 118株	2022年3月期2Q	13, 425, 430株

[※]当社は、「役員報酬BIP信託」を導入しており、当該信託が保有する当社株式は、期中平均株式数の算定上控除する自己株式に含めております。

- ※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です
- ※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に掲載されている業績見通し等の将来に関する記述は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づいて作成されており、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。業績予想に関する事項につきましては、添付資料3ページを参照してください。

○添付資料の目次

1. ≧	当四半期決算に関する定性的情報	2
(1)	経営成績に関する説明	2
(2)	財政状態に関する説明	2
(3)	連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 🛚	当半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1)	四半期連結貸借対照表	4
(2)	四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3)	四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4)	四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
	(継続企業の前提に関する注記)	9
	(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
	(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)	9
	(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1)経営成績に関する説明

2022年9月に、ブルドックソースは「創業120周年」を迎えました。次の新たなステージ(海外への展開と事業領域の拡大)に向けグループを磨き上げるため、グループ力・社員力の最大化を目標に、「第10次中期経営計画 『B-UP120』」(2020年度~2022年度)の最終年度として、①資本・財務戦略Brush UP(資金循環の活性化)②生産体制Brush UP(生産性向上に向けた大型投資)③マーケティングBrush UP(未開拓・手薄領域へのチャレンジ)達成に向けて取り組んでおります。

当第2四半期連結累計期間(2022年4月1日~2022年9月30日)は、新型コロナウイルス感染症による国内行動制限が緩和され、正常な社会活動に戻りつつありましたが、2022年7月以降は変異株ウイルスの拡大により、新規感染者数は過去最多を更新し第7波のピークをむかえました。また、ウクライナ情勢の長期化や、急激な円安の進行などの影響から原材料・燃料価格が高騰し、食品や日用品、エネルギー価格の値上げが相次ぎました。当社グループにおきましても2022年6月から一部商品の価格改定を実施しましたが、家計の負担が増す中、消費者の節約志向はますます顕著になり「家庭用商品」の売上は厳しい状況となりました。特に小麦粉や食用油の大幅な値上がりにより、お好み焼等ソース使用メニューが敬遠される中、120周年記念キャンペーンを展開し需要の拡大に努めておりますが、「ソース類(ウスター・中濃・とんかつ・専用他)」の売上は前年同期比4.6%減の38億8千3百万円となりました。「ドレッシング類・たれ・ケチャップ」の売上は「&Bull-Dogシリーズ」の新商品「たっぷり薬味焼肉のたれ(きざみにんにく醤油・本格コチュジャンみそ240g)」や「素材を味わうドレッシング(すりおろし野菜・焙煎ごま・和風たまねぎ・イタリアン200ml)」が伸長し売上に貢献しましたが、材料セット等が振るわず前年同期比6.0%減の9億2千5百万円となりました。一方、「業務用商品」は外食や事業所給食の回復による売上増加、デリカ向け商品の新規ユーザー獲得や新規メニュー導入により、売上は前年同期比13.2%増の18億4千7百万円と伸長しました。この結果、当第2四半期連結売上高は前年同期比0.5%減の66億5千6百万円となりました。

利益面では、予想を大幅に超える原材料・燃料などの高騰が続き、特に主要原料である野菜・果実類や砂糖類の値上がりが大きく影響し、営業利益は前年同期比53.6%減の1億5千万円、経常利益は保有株式売却により投資有価証券売却益を計上し前年同期比7.6%減の5億5千9百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期比13.9%減の3億6千1百万円となりました。今後も物価上昇による消費者の節約志向や原材料、燃料価格の上昇は続くと予想されますが、インバウンド関連の制限緩和や国内行動制限緩和を踏まえた外食・中食市場の需要拡大に向けた商品提案や内食市場変化を踏まえた家庭用商品の市場対応に努め、また、一層の生産性向上等により利益の改善に努めてまいります。

(2) 財政状態に関する説明

第1四半期連結会計期間より、富留得客食品(上海)有限公司を当社グループにおける重要性が増したため、連結の範囲に含めております。

(資産、負債及び純資産の状況)

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べて9億4千3百万円減少し、288億1千9百万円となりました。

流動資産につきましては、現金及び預金の減少などにより、前連結会計年度末に比べて8億2千3百万円減少し、89億6千9百万円となりました。

固定資産につきましては、生産体制再構築の投資により有形固定資産が増加したものの、保有株式売却による投資有価証券の減少などにより、前連結会計年度末に比べて1億1千9百万円減少し、198億5千万円となりました。

当第2四半期連結会計期間末の負債は、前連結会計年度末に比べて10億3千6百万円減少し、85億8千6百万円 となりました。

流動負債につきましては、設備代金支払により未払金が減少したことなどにより前連結会計年度末に比べて33億3千3百万円減少し、39億8千3百万円となりました。

固定負債につきましては、長期借入金の増加などにより、前連結会計年度末に比べて22億9千7百万円増加し、 46億3百万円となりました。

純資産は、利益剰余金の増加などにより、前連結会計年度末に比べて9千3百万円増加し、202億3千3百万円となりました。

(キャッシュ・フローの状況)

当第2四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ7億1百万円減少し、36億6千9百万円となりました。なお、当第2四半期連結累計期間における連結キャッシュ・フローの状況は以下の通りであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、2億9千7百万円の収入(前年同期は、4億1千3百万円の収入)となりました。

これは主として、税金等調整前四半期純利益5億2千5百万円によるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、32億7千8百万円の支出(前年同期は、7千1百万円の支出)となりました。

これは主として、有形固定資産の取得による支出38億2千9百万円によるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、22億7百万円の収入(前年同期は、3億5千万円の支出)となりました。

これは主として、長期借入れによる収入25億円によるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の業績予想につきましては、本日公表しております「業績予想の修正に関するお知らせ」を参照してください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

		(単位:百万円)
	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4, 591	3, 684
売掛金	4, 391	4, 207
商品及び製品	580	755
原材料及び貯蔵品	137	152
仕掛品	14	24
その他	78	145
流動資産合計	9, 793	8, 969
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	2, 296	2, 313
機械装置及び運搬具(純額)	1,898	1,824
土地	2, 784	2, 784
建設仮勘定	4, 361	4, 490
その他(純額)	120	114
有形固定資産合計	11, 460	11, 527
無形固定資産	33	66
投資その他の資産		
投資有価証券	7, 544	7, 404
繰延税金資産	183	181
その他	756	678
貸倒引当金		△8
投資その他の資産合計	8, 475	8, 256
固定資産合計	19, 969	19, 850
資産合計	29, 763	28, 819

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1, 477	1, 527
電子記録債務	321	330
短期借入金	30	110
1年内返済予定の長期借入金	196	281
未払法人税等	194	188
未払金	3, 584	146
未払費用	1, 240	1, 161
賞与引当金	184	194
その他	87	43
流動負債合計	7, 317	3, 983
固定負債		
長期借入金	502	2, 789
繰延税金負債	805	792
退職給付に係る負債	899	929
役員株式給付引当金	32	32
執行役員退職慰労引当金	41	34
長期未払金	15	15
その他	10	8
固定負債合計	2, 306	4, 603
負債合計	9, 623	8, 586
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,044	1, 044
資本剰余金	2, 564	2, 564
利益剰余金	15, 354	15, 448
自己株式	△804	△804
株主資本合計	18, 159	18, 252
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1, 948	1, 928
為替換算調整勘定	_	22
退職給付に係る調整累計額	32	28
その他の包括利益累計額合計	1,980	1, 980
純資産合計	20, 139	20, 233
負債純資産合計	29, 763	28, 819

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

		(単位:百万円)
	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日
	至 2021年9月30日)	至 2022年9月30日)
売上高	6, 686	6, 656
売上原価	4, 363	4, 489
売上総利益	2, 323	2, 166
販売費及び一般管理費	1, 999	2, 016
営業利益	323	150
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	110	120
投資有価証券売却益	167	300
その他	5	4
営業外収益合計	284	426
営業外費用		
支払利息	1	6
支払手数料		3
為替差損	_	6
その他	0	0
営業外費用合計	1	16
経常利益	605	559
特別損失		
固定資産除却損	2	11
投資有価証券評価損	0	0
事業再構築費用		22
特別損失合計	2	34
税金等調整前四半期純利益	603	525
法人税等	183	163
四半期純利益	420	361
非支配株主に帰属する四半期純利益		-
親会社株主に帰属する四半期純利益	420	361

四半期連結包括利益計算書 第2四半期連結累計期間

		(単位:百万円)
	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
四半期純利益	420	361
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△230	△19
為替換算調整勘定	_	10
退職給付に係る調整額	0	$\triangle 3$
その他の包括利益合計	△229	△12
四半期包括利益	190	348
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	190	348
非支配株主に係る四半期包括利益		_

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	(単位:百万円) 当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	603	525
減価償却費	353	360
賞与引当金の増減額 (△は減少)	$\triangle 2$	9
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	40	25
役員株式給付引当金の増減額(△は減少)	3	_
執行役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	0	△6
受取利息及び受取配当金	△110	△121
支払利息	1	6
支払手数料	_	3
固定資産除売却損益(△は益)	2	11
投資有価証券売却損益(△は益)	△167	△300
投資有価証券評価損益(△は益)	0	0
売上債権の増減額(△は増加)	△20	191
棚卸資産の増減額(△は増加)	19	△199
仕入債務の増減額(△は減少)	△64	53
未収消費税等の増減額(△は増加)	28	△19
未払費用の増減額(△は減少)	△182	△79
その他	$\triangle 20$	△95
小計	484	366
利息及び配当金の受取額	110	121
利息の支払額	$\triangle 1$	$\triangle \epsilon$
法人税等の支払額	△179	△184
営業活動によるキャッシュ・フロー	413	297
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△351	△3,829
無形固定資産の取得による支出	$\triangle 2$	△39
投資有価証券の取得による支出	$\triangle 3$	∆3
投資有価証券の売却等による収入	321	412
その他	△36	180
投資活動によるキャッシュ・フロー	<u> </u>	$\triangle 3,278$
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	_	80
長期借入れによる収入	_	2,500
長期借入金の返済による支出	△107	△128
配当金の支払額	△236	△236
その他	$\triangle 6$	$\triangle 7$
財務活動によるキャッシュ・フロー	△350	2, 207
見金及び現金同等物に係る換算差額	_	7
見金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△8	△766
見金及び現金同等物の期首残高	4,850	4, 371
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額		65
現金及び現金同等物の四半期末残高	4,842	3, 669
	1, 312	5,000

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) 該当事項はありません。

(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)

該当事項はありません。

なお、特定子会社の異動には該当しておりませんが、第1四半期連結会計期間より、富留得客食品(上海)有限公司を当社グループにおける重要性が増したため、連結の範囲に含めております。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理の適用)

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計 適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。